

## 真理に歩む

### GOD WITH US Part 11: LATER LETTERS Message 13 – 2 & 3 John Walking in the Truth

#### 神はわれらと共に

##### パート 11：後の手紙

##### 第 13 メッセージ - ヨハネの手紙第二、第三

##### 真理の内に歩む

#### はじめに

ヨハネの手紙第二、第三は、パピルス紙一枚に十分収まる、非常に短い手紙であることから、現代のはがきの様なものであったと考えることができます。この手紙は、ヨハネが近い将来訪問したいと思っていた人々に宛てられたもので、それぞれの手紙の終わりには、「墨と筆」ではなく、会って直接話し合いたいと記しています。第二ヨハネは、「**選ばれた夫人**」に宛てられていますが、これはおそらく特定の教会へ宛てたものと考えられます。（おそらく教会とその会員を構成する信者の比喩と考えられます。）第三ヨハネは、地元の教会の指導者であったガイオ（今の「牧師」に相当）に宛てられています。どちらの手紙の中で、教会を脅かしている異端の中で信者が「真理に歩む」という第一ヨハネのテーマが続いています。これらの二通の短い手紙を、テーマ別に見ていきましょう。

ヨハネの手紙第二、第三の両方の手紙の中で、「真理に歩む」というテーマが強調されており、挨拶の中で、「真理」という言葉が繰り返し用いられています。

**1:1** 長老のわたしから、真実に愛している選ばれた婦人とその子たちへ。あなたがたを愛しているのは、わたしだけではなく、真理を知っている者はみなそうである。**1:2** それは、わたしたちのうちであり、また永遠に共にあるべき真理によるのである。**1:3** 父なる神および父の御子イエス・キリストから、恵みとあわれみと平安とが、真理と愛のうちにあって、わたしたちと共にあるように。**1:4** あなたの子供たちのうちで、わたしたちが父から受けた戒めどおりに、真理のうちに歩いている者があるのを見て、わたしは非常に喜んでいる。

#### (第二ヨハネ 1 - 4)

この冒頭には真理への言及が5回あり、ヨハネの喜びは、霊的子どもたちが「真理に歩んでいる」という事実結びついています。別の教会／指導者に宛てられた第三ヨハネの冒頭の句も同様です：

**1:1** 長老のわたしから、真実に愛している親愛なるガイオへ。  
**1:2** 愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。**1:3** 兄弟たちがきて、あなた

が真理に生きていることを、あかししてくれたので、ひじょうに喜んでいる。事実、あなたは真理のうちを歩いているのである。1:4 わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。(第三ヨハネ 1-4)

当時も今も、問題は、サタンは真理の敵であり、この世にその代理人(偽教師)が存在し、人々を神の真理から遠ざけようと働いていることです。ヨハネは、これらの真理の敵と、神の子どもたちへの潜在的な影響について警告しています。

1:7 なぜなら、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白しないで人を惑わす者が、多く世にはいつてきたからである。そういう者は、惑わす者であり、反キリストである。1:8 よく注意して、わたしたちの働いて得た成果を失うことがなく、豊かな報いを受けられるようにしなさい。1:9 すべてキリストの教をとおり過ごして、それにとどまらない者は、神を持っていないのである。その教にとどまっている者は、父を持ち、また御子をも持つ。(第二ヨハネ 7-9)

ヨハネの時代の問題は競り合う真理の主張でした。今日も同じ問題は存在していますが、そもそも真理の考えそのものに反対するという、より深刻なチャレンジに直面しています。友人のアブドゥ・マレーが記したように、私たちは真理を脱却する文化に生きています。以前は、真理は一人一人に関係していると言った「ポストモダニズム」文化に生きていました。あなたには、あなたの真理があり、私には、私の真

理があります。「真理」は、個人的な問題であるので、どちらも有効です。しかしながら、今の文化では、真理にさらに何かを追加されています。真理は絶対ではなく、無関係で、まったく問題でなくなってしまうています。自由意志的な真理のセットの様なものが、まるで実際に存在するかのようになり、様々な真理の主張を議論する価値はありません。以前は、錨が底から外れた状態で漂流していた状態で、せめて錨を引きずっていたと言えましたが、今では、錨は、完全に切り離されている状態です。私たちは、明確な手引きや目的地を失い、ポスト真理の文化を漂流しています。

「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」(第三ヨハネ 4)。あなたに倣う人々が神の真理を学び、真理に生きるようになるために、あなたは手伝っておられるでしょうか？ その人々が従うべき模範となって、あなた自身が真理に歩んでおられるでしょうか？ 真理を理解し、それがあなたにとってどれほど重要であるかを彼らに示しておられるでしょうか？ そうする機会が訪れたとき、彼らの人生に真理を語ることを求めておられるでしょうか？ 「子どもたち」(霊的または実の子ども)が「真理に歩む」ためには、ヨハネが霊的子どもたちに道を示したように、道を示す「親」が欠かせません。

## 真理を擁護する

真理の内に歩むことに加えて、第二、第三ヨハネは、真理を擁護する人々を援助することに重点を置いています。クリスチャンは、様々な方法で、真理を語る人を援助することができます。家に、巡回伝道者や巡回教師を招いて、もてなし、これから世に出て、神の真理を語りに行こうとしている彼らに、その財政的、または物質的な資源を援助することもできます。第三ヨハネには、宣教旅行中の巡回伝道者や巡回教師の支援に関する具体的な指示があります。

**1:5 愛する者よ。あなたが、兄弟たち、しかも旅先にある者につくしていることは、みな真実なわざである。1:6 彼らは、諸教会で、あなたの愛についてあかしをした。それらの人々を、神のみこころにかなうように送り出してくれたら、それは願わしいことである。1:7 彼らは、御名のために旅立った者であって、異邦人からは何も受けていない。1:8 それだから、わたしたちは、真理のための同労者となるように、こういう人々を助けねばならない。(第三ヨハネ 5-8)**

旅先にある兄弟たちにつくすことは、初期のクリスチャンが訪れる教師や使徒たちに捧げることができる重要な贈り物でした。「ホテル」(旅館)は、汚くて安全ではないことで知られており、道徳的な誘惑も問題でした。初期のクリスチャンは、これらの「見知らぬ人」に家を開放することによっ

て、「真理を持つ仲間の同労者」であることを証明しました(第三ヨハネ8)。さらに、彼らが次の任務に向かう途中で、宣教教師に経済的支援を提供することもできました。このような宣教教師たちは、「異邦人」(ここでは「未信者」を意味する)からの財政的支援を受け入れることなく、イエスの名を世界に広めるために出かけていたので、彼らを支援することは、初期のキリスト教会会員の義務でした。

ここには、地域教会の「宣教」における理念の起源があります。これは、次の宣教教師の評判を識別し、教会が彼らを支援するための財源を適切に割り当てるのを助けるために任命された人々のグループです。ヨハネの時代には、各教会の指導者/教師は、訪問する宣教教師の信任状を確認し、会衆を招いて、訪問者の援助と励ましを助ける責任がありました。オークポイント教会の宣教に興味がある方は、是非、宣教牧師のブレントに連絡して、参加する方法を調べてください。

一方、第二ヨハネでは、偽りの教師にもてなしを示すことは全く別問題であると言っています。

**1:10 この教を持たずにあなたがたのところに来る者があれば、その人を家に入れることも、あいさつすることもしてはいけない。1:11 そのような人にあいさつする者は、その悪い行いにあずかることになるからである。**

(第二ヨハネ 10, 11)

「偽教師をあなたの家に受け入れる」ことに関するこの警告は、クリスチャンの信念に反する考えを信じたり教えたりする人々と将来、何らかの形で、我が家に招いて会話することを禁止するものではありません。彼らの誤った教えの普及に参加するために、偽教師を招き入れ、支援することに関する警告です。

他宗教の宣教師が、あなたの玄関先に現れた場合、イエスについての真理を提示する意図で会話に招くのであれば、ヨハネの指示の意図に違反しません。一方、彼らが、あなたの近所で宣教活動をしようとしているときに、滞在中の身体的、及び経済的必要を満たすために、あなたの家に滞在するよう招いたり、また、将来の働きを支援するために、経済的援助をするなら、それはヨハネの指示の意図に違反することになります。

### 真理に倣う

第三ヨハネは、影響力のある地域教会の危険な指導者、デオテレペスに焦点を当てています。デオテレペスは、敬虔な外部からの巡回教師たちが町を訪れた際、彼らの受け入れを拒み、歓迎した信者たちを破門した程、誇り高く、指導者としての自分のトップの地位に固執した男でした。小アジアの教会の司教と見なされていた使徒ヨハネの勧告を拒み、ヨハ

ネの人格を傷つけ、ヨハネに対する虚言を広めました。したがって、ヨハネは、この男の例に従わないようにと強い警告を発しています。

**1:9** わたしは少しばかり教会に書きおくっておいたが、みんなのかしらになりたがっているデオテレペスが、わたしたちを受けいれてくれない。**1:10** だから、わたしがそちらへ行った時、彼のしわざを指摘しようと思う。彼は口ぎたなくわたしたちをののしり、そればかりか、兄弟たちを受けいれようともせず、受けいれようとする人たちを妨げて、教会から追い出している。**1:11** 愛する者よ。悪にならわないうで、善にならいなさい。善を行う者は神から出た者であり、悪を行う者は神を見たことのない者である。（第三ヨハネ 9－11）

では、この地域教会の信者たちは、誰を指導者として信頼すべきでしょうか？ヨハネは、信者の共同体の中で優れた評判があった、デメトリウスを高く評価し、彼らが従うべき例として信頼するように勧めています。

**1:12** デメテリオについては、あらゆる人も、また真理そのものも、証明している。わたしたちも証明している。そして、あなたが知っているとおりに、わたしたちの証明は真実である。（第三ヨハネ 12）

1世紀の異邦人クリスチャンの多くは、ギリシャの神々や女神が崇拜されていた家での育成を反映した名前が付けられて

いました。デメトリウスの名前は、ギリシャの女神デメテルに由来します。直訳すると、「デメテルに捧げられた」となります。ある時点で、デメトリウスに、キリストのメッセージが紹介され、信者になりました。かつては、ギリシャの女神、デメテルに捧げられた子どもが、他の人が倣うためのクリスチャンの献身の模範へと変えられたキリストの力のなんと力強い証でしょう！（因みに、デオテレベスという名前は、「木星によって養われた」という意味です。）

あなたは誰に倣っておられますか？誰を模範としておられますか？あなたに出来る最も重要なことは、指導者を決定し、彼らから可能な限りを学ぶように努めることです。クリスチャン生活の多くは、聞くことによって学ぶだけでなく、見ることによって学ぶことです。良い、敬虔な模範を見つけ、その足跡を辿りましょう。

### 直接会って話し合う

ヨハネはこれらの手紙の両方の受取人に書き送りたいことが沢山ありましたが、直接会って話すことを望みました。

**1:12** あなたがたに書きおくことはたくさんあるが、紙と墨とで書くことはすまい。むしろ、あなたがたのところに行き、直接はなし合って、共に喜びに満ちあふれたいものである。（第二ヨハネ 1 2）

**1:13** あなたに書きおくりたいことはたくさんあるが、墨と筆とで書くことはすまい。 **1:14** すぐにでもあなたに会って、直接はなし合いたいものである。 **1:15** 平安が、あなたにあるように。友人たちから、あなたによろしく。友人たちひとりびとりに、よろしく。（第三ヨハネ 1 3, 1 4）

ヨハネにとっての喜びは、神との交わりと、お互いの交わりに歩むことを求めつつ、仲間の信者たちと共に愛に歩む関係の内に見出しました。

今日、信者たちは、かつてないほど孤立しています。「教会」が「正常に」機能しているときでさえ、多くの人々は健全な霊的形成に必要な関係の繋がりを欠いています。多くの場合、人々は実際の人々に対面して繋がるといよりも、機器に「繋がって」います（対面）。Dr. Henry Cloud と Dr. John Townsend 著書の『How People Grow』で結論付けているように、成長は、次の公式に従って起こります：GRACE（恵み）+ TRUTH（真理）+ TIME（時間）+ RELATIONAL CONTEXTS（関係的背景）。私たちは皆、それぞれの心と思いに語られる神のみ言の真理を必要としています。しかし、この真理は、人々を通して表現される神の愛の恵みとあわれみと優しさに包まれて、もたらされる必要があります。次に、神の真理を適切に用いて、関与する時間が必要です。変化は一夜にして起こるものではありません。最後に、これらすべては、真に繋がる関係の背景の中で起こる必要があります。別の著者が、（脳科学的観点か

ら)異なる方法で同じ点を指摘しています。「The Other Half of Church」の著者、ジム・ワイルダーとミシェル・ヘンドリックスは、脳の情報を処理する側が新しい真理を適切に評価し続けているとしても、関係を処理する側が霊的な形成の道を先導する必要があると主張します。私たちの人との関係の繋がりが、神の人生を変えるみ言の真理を生き抜く能力を決定すると結論付けています。これが、イエスが次の様に言われた理由です：「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。(ヨハネ14:15)」イエスが私たちを愛してくださるように他者を愛(関係)するということは、神の命令(一連の真理に従う)への従順を意味します。あなたは愛に満ち、喜びを与える関係において、誰と深く繋がっておられますか？

な人を見つけること)といかに関連しているかに注意してください。

3. ヨハネの三通の書簡から得られた、あなたにとっての最大の教訓は何ですか。

### ディスカッションの質問

1. 「ポスト真実の文化」の中で、クリスチャンとして生きることの課題について話し合しましょう。これは、あなた自身の生活の中でどのように展開していますか？
2. 霊的形成のための関係のつながりの重要性について、上記の最後の枠内を読み、話し合しましょう。それが、ヨハネが「真理に倣う」ことを強調していること(つまり、模倣できる敬虔